

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

伝統に培われた実績とアカデミックな校風を背景に文武両道・授業第一主義を貫き、次代のリーダーの育成をめざす。

- 1 高い志とチャレンジ精神で臨み、進路目標を達成する力を育む。
- 2 知・心（徳）・体にバランスの取れた豊かな人間性を育む。
- 3 広い視野と豊かな知識を持ち、次代のグローバルリーダーとしての資質を育む。

2 中期的目標

1 高い学力の育成

(1) 授業の充実

生徒による授業評価と保護者による授業公開のアンケート結果を十分に活用するとともに、他校とも連携した教員相互の授業見学を実施して、授業力を向上させる。ICTを活用した授業の実施及び授業公開を一層進め、本校だけでなく大阪府全体の授業力向上へ貢献する。また、土曜授業を実施し、全ての教科での取組を充実させる。

※生徒のアンケートにおける全体の満足度を平成 27 年度 85%以上、平成 29 年度には 95%以上に。保護者による授業公開アンケートにおける肯定的意見を 100%に。生徒のアンケートにおける「ICTを活用している」という評価を平成 27 年度 95%以上、平成 29 年度には 100%にする。（平成 26 年度授業の満足度 83%、授業公開 99%、ICT活用の評価 90 %）

(2) 自主的な学習とバランスの取れた学習の定着

生徒が自主的なバランスの良い学習をしっかりと行えるよう、適切な指示・アドバイスを行い、環境整備も一層充実させる。

※生徒の平日の自主的な学習の時間が 2 時間以上の生徒が平成 27 年度 80%以上、平成 29 年度には 90%以上に。また、3 時間以上の生徒が平成 27 年度 55%以上、平成 29 年度には 65%以上に。平成 26 年度平日の自主的学習 2 時間以上 49.4%、3 時間以上 29.6%

2 豊かな人間性の育成

(1) 学校行事や部活動を通じた人間性の育成

学校行事や部活動を通して思い遣りや自主性を育む。

※学校行事に対する生徒の満足度が平成 27 年度以降 90%以上を維持する。（平成 26 年度 88%）

(2) 自己発見・自己実現に向けたキャリア教育の充実

「職業ガイダンス」や「学部・学科ガイダンス」、さらには「知的世界への冒険」など、卒業生の支援のもとキャリア教育を充実させる。

※「職業ガイダンス」の満足度は平成 27 年度以降 95%以上に。平成 26 年度 94%

「学部・学科ガイダンス」の満足度は平成 27 年度以降 90%以上を維持する。（平成 26 年度 90%）

「知的世界への冒険」の満足度は平成 27 年度 90%以上に、平成 29 年度には 95%以上に。平成 26 年度 88%

第一希望現役実現率が平成 27 年度以降 5 割以上を維持し、平成 29 年度には 6 割以上に。平成 26 年度は 45%

(3) 教育相談活動の充実

生徒や保護者に対するきめ細かな教育相談ができるよう、情報の共有や体制づくり及び環境整備を一層充実させる。

※達成度を平成 27 年度には 90%以上に、平成 29 年度には 95%以上に。平成 26 年度 85%

3 次代のグローバルリーダーとしての資質の育成

(1) 議論する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成

授業を中心とする様々な学習活動の中で、自分の考えをまとめ表現できる力、相手の主張を理解し自分の意見を交えしっかりと議論ができる力を育成する。

※生徒アンケートにおける肯定的評価が平成 27 年度 75%以上に、平成 29 年度には 85%以上に。平成 26 年度 72%

(2) SGH及びGLHSの取組みを発展、充実させる。

ハワイ大学をはじめとする海外の大学や国際機関、高校等と連携し、国際的な視点で大学の研究の最先端に触れる。また、グローバルな社会課題を多角的に学び、積極的にその解決策を提言できる生徒を育成する。

※国際的な社会課題への関心度を、平成 27 年度は 60%以上に、平成 29 年度には 80%以上に。平成 26 年度 57%

4 教職員の学校運営に係る体制づくり

(1) 情報や課題を共有し、迅速に対応できる体制づくりを一層進める。

(2) 学校運営の中心となる人材を育成する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>1 高い学力の育成</p> <p>授業に関して、生徒向け学校教育自己診断では「問 4：授業は興味深く満足できる（78%→83%→84%）」、「問 5：授業内容の難易度は適切である（78%→79%→79%）」、「問 6：授業の進度は適切である（75%→75%→78%）」、「問 7：授業では、実験・観察・実習などの時間がたくさんある（47%→57%→63%）」、「問 8：授業などでコンピューターやプロジェクタ、電子黒板を活用している（85%→90%→89%）」、「問 9：授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がよくある（60%→72%→70%）」、また「問 10：教え方に様々な工夫をしている先生が多い（77%→80%→82%）」などの項目を設定している（カッコ内の数値は、「平成 25 年度→26 年度→27 年度」の肯定的評価の割合）。H25 年度と比較すると、問 7、問 8、問 9 の変化からわかるように、本校でも授業では ICT の活用、実験・観察・実習等の時間、自分の考えをまとめたり発表したりする場面が増加していることがうかがわれ、授業の進捗（問 6）や難易度（問 5）についての生徒のとらえ方があまり変化していない中で、教員が教え方を工夫しつつ（3 年間で 5 ポイント増加）、新たな教育課題（ICT の効果的な活用、考える力、発表する力等の育成）に対応しようとしていることが表れている。この中で、生徒の授業満足度（問 4）もやや高まりつつあるが、GLHS 指定校として、さらに高いレベルで生徒の満足度が得られるよう、今後も常に授業の改善の努力をしていくことが重要である。</p> <p>2 豊かな人間性の育成</p> <p>部活動や学校行事等を通じて、仲間と互いに協力し合い、互いを尊重し、様々な課題を乗り越えていく経験を積む中で、人として備えるべき資質も備わってくる。そのため、本校は伝統的にこれらの実践を重視している。その中で生徒の意識を見ても、「問 20：文化的行事には楽しく参加している（89%→89%→88%）」、「問 21：体育行事には楽しく参加している（90%→88%→87%）」、「遠足や修学旅行には楽しく参加している（94%→95%→93%）」、「自分は部・同好会活動に積極的に取り組んでいる（83%→86%→88%）」と、学校生活を充実させていることがわかる。今後もこの点についてはぶれることなく進めていく。</p> <p>3 次代のグローバルリーダーとしての資質の育成</p> <p>前述のとおり、授業においても「自分の考えをまとめたり、発表したりする機会」を積み重ねてきており、「議論する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力」等の育成を図っている。また平成 25 年度と 26 年度は「環境、国際理解、福祉ボランティア等の学習する機会が充分ある」という問いの肯定的評価の割合がそれぞれ 38%、57%であり、SGH の指定を受けた昨年度から大きく数値が上昇していることがわかる。今年度はこの問いを「環境に関する学習をする機会が充分ある」、「国際理解に関する学習をする機会が充分ある」、「福祉ボランティアに関する学習をする機会が充分ある」の 3 問に分割して問うたところ、それぞれ 54%、68%、50%の肯定的評価であった。3 問の平均では 57%と昨年度と同じであるが、国際理解に関する学習が他の問いより高くなっているのは、生徒たちも SGH の取り組みについて意識していることの表れであろう。いずれにせよ、今後、これらの取り組みについてもさらに充実させ、グローバル社会で活躍できる力の育成に努めたい。</p>	<p>【第 1 回：平成 27 年 6 月 25 日開催】</p> <p>○先生方個々にいろいろなアイデアがあるはずなので、教授法の意識合わせをすることは非常に重要である。</p> <p>○大学入試にチューニングするとい点数がとれるが、入ってからの意欲が続かない。大学実績は明確な目標であるが、どのような意欲をもって入ってくるかが肝要である。大学で教えていると、トップの学生は非常に素晴らしいが、成績下位生徒のモチベーションを上げるのは難しい。いろいろな興味をもちながら大学に入ってくる生徒は、大学入学後も意欲をもつことが多い。</p> <p>○すばらしいことをした学生や先生を表彰する制度はあるのか。海外ではアワードが重視されている。積極的に北野高校でもたたえる制度をもってもいいのではないかと。</p> <p>○学力をのばしていく取り組みはたくさんなされている。ただ、心配なのは授業についていけない人が放置されるのではないかとということである。北野高校はできる生徒には居心地がよいが、そうでない生徒には居心地がよくないという話を聞く。そうした生徒をどのようにフォローしていくのかは、苦勞が伴うと思われるが、必要である。それらは、指標にはあらわれにくいと思うが、ぜひ配慮をお願いしたい。</p> <p>【第 2 回：平成 27 年 10 月 8 日開催】</p> <p>○授業アンケートの数値をどのように活用しているのか。評価が低い場合、どのようにしたらいいかわからない教員もいるだろう。</p> <p>○キャリアガイダンスでは、わかりやすい仕事しかない。いろいろなところから活躍されている人を集める必要がある。医者、弁護士等以外にもあまり知られていない仕事を提示することも必要である。</p> <p>○クラブ活動について、まったくオフなしで朝昼土日に部活動をしている部があるが、科学的な効果のある練習を知る機会があったほうが、生徒にとってもよいのではないかと。</p> <p>【第 3 回：平成 28 年 2 月 24 日開催予定】</p> <p>○学校経営計画について具体的な教育指導目標を定めたのは良い。問題点をどう解決するかも含めてきちんと対策を考えているので我々からコメントすることはない。ただ、これだけのことを取り組むため教員側の健康面が心配である。</p> <p>○（次年度から 4 月を「予習→授業→復習のサイクル定着強化月間」とすることについて）4 月から一か月間、このような取り組みを進めるのは大事だと感じる。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 高い学力の育成	<p>(1) 個々の教員の授業力の向上と教員の連携による授業の充実</p> <p>(2) 生徒の自主的な学習とバランスの取れた学習の定着</p> <p>(3) 生徒の到達度の正確な把握と個々の学習状況に応じた学習指導の実践</p>	<p>ア 校内での授業公開週間を年に2回実施する。また、他校と連携して、教員経験年数の少ない教員による公開研究授業をそれぞれ1回以上実施し、併せて授業力向上研修協議会を実施する。</p> <p>イ 教員相互の授業見学を全員で行い、授業見学後の反省記録用紙を作成して供覧できる体制を作り、さらなる授業改善を行う。</p> <p>ウ 土曜授業を実施して、全ての教科での授業における取組を充実させる。</p> <p>エ 電子黒板などICTを活用した授業を一層充実させ、府内外の高校に授業公開することにより、府内外の学校が電子黒板の導入を決意できるよう支援する。</p> <p>オ 授業における自主学習への適切な指示・アドバイスと、教科バランスのとれた学習についてのアドバイスを日常的に行うだけでなく、自主学習意欲を高める</p> <p>カ 校内の学力テストや模擬試験、校外の模擬試験などを活用し、分析会を実施して生徒の学力の伸びを正確に把握する。</p> <p>キ ハワイ大学以外にも東南アジアなどの海外の高大連携先を2校以上開拓して、生徒の学習の国際化に対応する。</p>	<p>ア・イ・ウ 生徒のアンケートにおける全体の満足度85%以上。(平成26年度83%) 保護者による授業公開アンケートにおける肯定的意見100%。 (平成26年度99%)</p> <p>エ 生徒アンケートにおける「ICTを活用している」という評価が95%以上。(平成26年度90%)</p> <p>オ 生徒の平日の自主学習の時間が2時間以上80%以上、3時間以上55%以上。 (平成26年度平日の自主学習2時間以上49.4%、3時間以上29.6%)</p> <p>カ 学校教育自己診断における達成度80%以上。(平成26年度65%)</p> <p>キ 高大連携の満足度100%。 (平成26年度100%)</p>	<p>ア・イ・ウ *生徒向け学校教育自己診断の項目「授業は興味深く満足できるものである」の肯定的評価を基準としており、H27年度実績は84.2%。(○) *第一回保護者アンケート 98.9%。第二回は100%で平均値は99.4%。(○)</p> <p>エ 生徒向け学校教育自己診断による肯定的評価は89.3%で、昨年度並みであった。(○)</p> <p>オ 生活アンケートで把握する生徒の平日の自主学習時間は、「2時間以上」が44.5%、「3時間以上」が28.0%であった。前年度のデータに過誤があり、目標設定そのものの数値に妥当性がなくなった。現状としては平日の学習時間をさらに増やす必要がある。(△)</p> <p>カ 教員向け学校教育自己診断における「評価の基準や方法について教職員間で話し合う機会がある」の肯定的評価の割合を基準としてきた。平成27年度実績は65.0%で昨年並み。(△)</p> <p>キ 高大連携に係る各取り組み後のアンケートによる満足度(肯定的評価)は97.1%であった。(○)</p>
2 豊かな人間性の育成	<p>(1) 学校行事や部活動のさらなる充実</p> <p>(2) 自己発見・自己実現に向けたキャリア教育の充実</p> <p>(3) 異文化理解教育の充実</p> <p>(4) 教育相談活動の充実</p> <p>(5) 校内美化・清掃活動の充実</p>	<p>ア 安全で安心な学校行事や部活動実施のため、活動内容の点検を行い、問題点を洗い出して更なる改善を行う。</p> <p>イ 「職業ガイダンス」や「学部・学科ガイダンス」、さらには「知的世界への冒険」も含め、内容を一層充実させる。</p> <p>ウ 大学や研究所等への留学生を活用するため、あらたな連携機関を開拓する。</p> <p>エ 教育相談関係のケース会議や支援教育校内委員会を実施するとともに、SCの参加を求める。また子ども家庭センター、府教育センター教育相談室等と連携するなど、外部専門化を積極的に活用する。</p> <p>オ 生徒の作品展示場所やポスター掲示場所の整備を行う。また、PTAと連携して定期的な清掃点検を行う。</p>	<p>ア 学校行事に対する生徒の満足度90%以上。(平成26年度88%)</p> <p>イ・ウ 「職業ガイダンス」の満足度95%以上。(平成26年度94%) 「学部・学科ガイダンス」の満足度90%以上。 (平成26年度90%) 「知的世界への冒険」の満足度95%以上。(平成26年度88%)</p> <p>エ 学校教育自己診断における達成度90%。(平成26年度85%)</p> <p>オ 学校教育自己診断における達成度80%。(平成26年度75%)</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断における「文化的行事には楽しく参加している」、「体育的行事には楽しく参加している」の肯定率の平均値は87.6%で昨年並みであった。(○)</p> <p>イ・ウ 「職業ガイダンス」の満足度は97.4%、「学部・学科ガイダンス」の満足度は90.9%、「知的世界への冒険」の満足度は93.8%であった。(○)</p> <p>エ 教員向け学校教育自己診断における「生徒が学級担任以外の教員やカウンセラー等とも相談することのできる体制が整備されている。」の肯定的評価は72.5%であった。(△)</p> <p>オ 保護者向け学校教育自己診断における「学校の施設・設備は、学習環境の面で満足できる。」の肯定的評価は74.7%で昨年並みであった。(○)</p>
3 次代のグローバルリーダーとしての資質の育成	<p>(1) 議論する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成</p> <p>(2) 国際的な課題への探求心の育成</p>	<p>ア 「課題研究」「情報」「学内留学」「海外語学研修」等を中心にディベートやプレゼンテーションの学習と実践を行う。また、あらゆる学習活動の中で、自分の考えをまとめ、発表する取り組みを行う。</p> <p>イ 海外の大学や国際機関、高校との連携により社会課題等について研究し、成果を発表する。</p>	<p>ア 学校教育自己診断における「自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」という評価が75%以上。 (平成26年度72%)</p> <p>イ アンケートにおける社会課題への関心度が60%以上。 (平成26年度57%)</p>	<p>ア 実績は69.9%で昨年並みであった。(○)</p> <p>イ 生徒向け学校教育自己診断における「環境・国際理解・福祉ボランティアに関する学習をする機会が充分ある。」という項目の肯定的評価の割合をこれまで基準としてきているが、今年度からこの項目を「国際理解に関する学習をする機会が充分ある。」「環境に関する学習をする機会が充分ある。」「福祉ボランティアに関する学習をする機会が充分ある。」の3項目に分けて聞き、その肯定的評価の平均値の実績は57.4%であった。(○)</p>
4 教職員の学校運営に係る体制作り	<p>(1) 情報や課題を共有し、迅速に対応できる体制づくり</p>	<p>ア ICTを活用して、情報や課題の共有や迅速な対応を行う。</p> <p>イ 教職員の危機管理意識を高めるための校内研修を実施する。</p> <p>ウ HPを充実させるとともに、保護者メールや緊急ブログ等の活用により、保護者への情報発信を確実にを行う。</p>	<p>ア・イ 学校教育自己診断における肯定的評価80%以上。(平成26年度ア64%、イ76%)</p> <p>ウ 学校教育自己診断における達成度80%以上。(平成26年度66%)</p>	<p>ア 教員向け学校教育自己診断における「ICT等の活用により教職員間で情報や課題を共有し、それに対し迅速に対応する体制が整っている」の肯定的評価の割合は82.5%であった。(○)</p> <p>イ 教職員向け学校教育自己診断における「重大な事故や事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている」の肯定的評価の割合は45.0%であり、昨年度より大幅に下がった(一昨年度並みとなった)。(△)</p> <p>ウ 保護者向け学校教育自己診断における「学校は、家庭へきめ細かく連絡をとり、情報を積極的に伝えている」の肯定的評価の割合は64.6%であった。(○)</p>